河内長野市埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

１９９１年３月

河内長野市教育委員会

序　　文

河内長野市は自然と文化財に恵まれた豊かな町です。

この環境は人々をひきつけ、近年は府下で最も人口増加が著しい町となりました。このため、生活環境の整備のため多くの都市型開発が進められました。

この恵まれた環境を求めて人々が移り住んできますと、今度は逆に、受け入れるための整備のために文化財や自然が破壊される危険が増大してきます。

地下に眠る埋蔵文化財は自然と共に真っ先に危機に立たされます。このような状況で、市教育委員会は開発に先立ち、埋蔵文化財の調査を実施し、把握に努めています。

今後とも市民の皆様の協力により、国民共有の財産である埋蔵文化財の保護に努めたい所存です。

最後になりましたが、調査に協力していただきました地主の方々、施工者の皆様方に記して感謝いたします。

河内長野市教育委員会
教育長　中　尾　謙　二

例　　言

1．本書は平成２年度に河内長野市教育委員会が国庫補助事業として計画、実施した塩谷遺跡ほか市内遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は、本市教育委員会社会教育課文化係尾谷雅彦を担当者として、平成２年４月１日から着手し平成３年３月31日をもって終了した。

3．本書の執筆は尾谷雅彦が行った。

4．発掘調査及び内業整理については下記の方々の参加を得た。
明地奈緒美・中村清美・中野雅美・結城（阪本）桂子

5．調査の実施に関しては、下記の方々の協力を得た。
井内正忠・杉山和良・久保八重子・村上貴美・喜多順子・阿部園子
中谷善子・吉井徳次・坂本　久・森實太一

目　　次

例　　言
1．はじめに…… 1
2．調査の状況…… 2
3．調査の結果…… 5
(1)烏帽子形城　　ＥＢＳ90－１…… 5
(2)烏帽子形城　　ＥＢＳ90－２…… 7
(3)向野遺跡　　ＭＫＮ90－１…… 9
(4)向野遺跡　　ＭＫＮ90－２…… 12

挿図目次

第１図　河内長野市遺跡分布図…… 2
第２図　烏帽子形城調査地位置図…… 5
第３図　ＥＢＳ90－１遺構実測図…… 6
第４図　ＥＢＳ90－１出土遺物実測図…… 7
第５図　ＥＢＳ90－２遺構及び出土遺物実測図…… 8
第６図　向野遺跡調査地位置図…… 9
第７図　ＭＫＮ90－１遺構実測図…… 10
第８図　ＭＫＮ90－１調査区土層図…… 11
第９図　ＭＫＮ90－１出土遺物実測図…… 12
第10図　ＭＫＮ90－２遺構実測図…… 13
第11図　ＭＫＮ90－２調査区土層図…… 14
第12図　ＭＫＮ90－２出土遺物実測図…… 15

表　目　次

第１表　発掘届出件数月別一覧……　1
第２表　河内長野市遺跡地名表……　3
第３表　主な民間開発関係発掘調査一覧……　4

図版目次

図版１　遺構　烏帽子形城ＥＢＳ90－１　全景(北から)、埋甕、石垣
図版２　遺構　烏帽子形城ＥＢＳ90－２　調査前(北から)、全景(西から)、全景(北から)
図版３　遺物　烏帽子形城ＥＢＳ90－１(１～13)、ＥＢＳ90－２(14～21)
図版４　遺構　向野遺跡ＭＫＮ90－１　全景(南から)、方形土坑(西から)、素堀井戸(西から)
図版５　遺構　向野遺跡ＭＫＮ90－２　南側調査区全景(東から)、北側調査区全景(北から)、北側調査区全景(東から)
図版６　遺物　向野遺跡ＭＫＮ90－１(１～８)、ＭＫＮ90－２(９～15)

1．はじめに

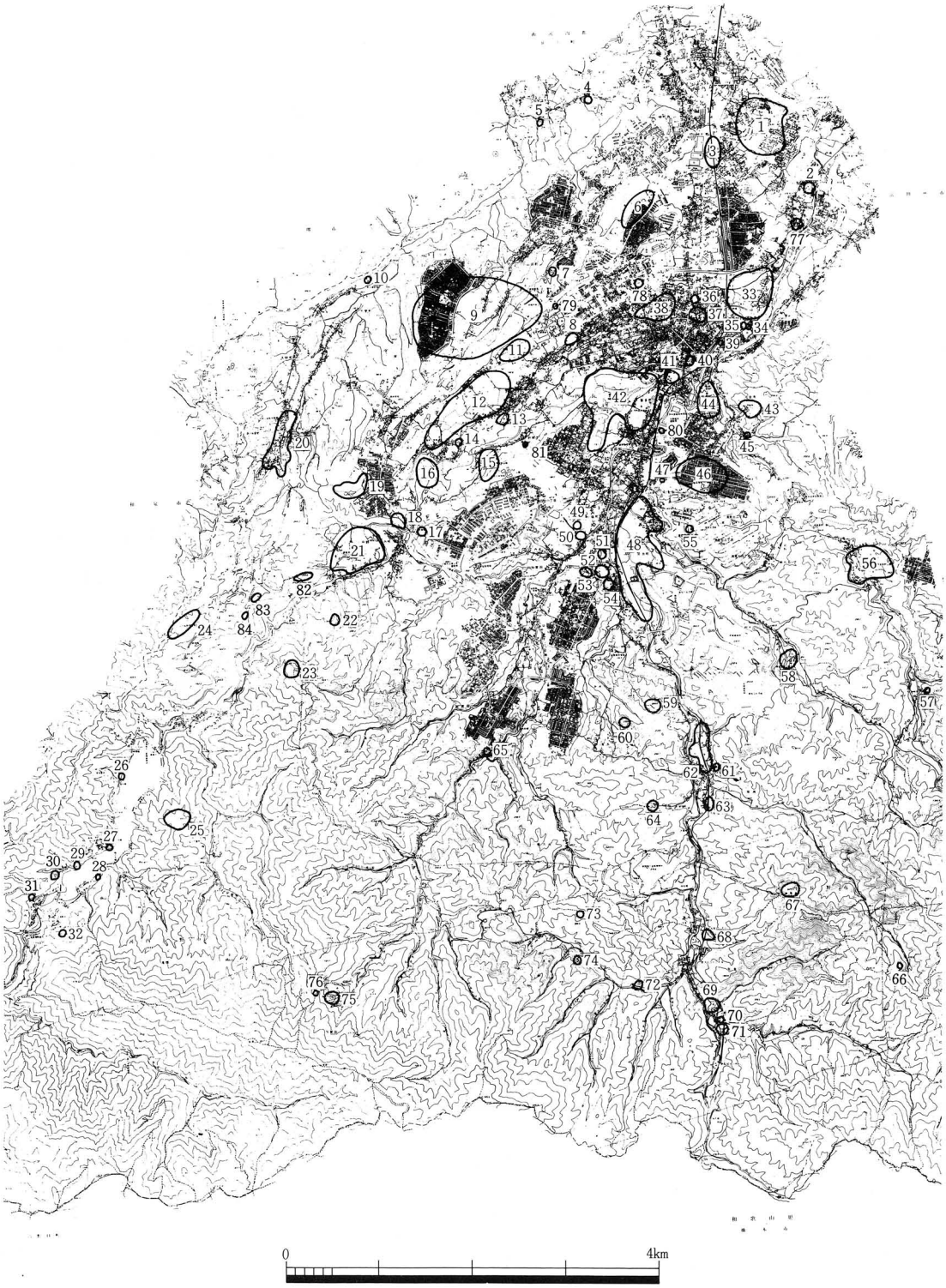
大阪府の東南端に位置する河内長野市は、旧河内国錦部郡に属し、紀伊・大和・和泉の三国に接していた。この為、古代から交通の要所となったところである。現代の河内長野市は大阪市の通勤圏に位置し、住宅都市として年々人口の増加する町である。特にここ数年の人口増加は府下でも屈指の伸び率を示し、住宅の新築・改築件数も増えている。この為、住宅開発とあわせて交通アクセスの整備、住宅環境の整備など、公共投資も盛んである。この結果、地下に眠る埋蔵文化財への影響は増加するばかりである。

このような状況下のなかで本市教育委員会は国庫及び府からの補助金を受けて発掘調査を実施した。

本年度の文化財保護法57条の２及び３の発掘届及び発掘通知の件数は１月末現在で総数37件、内発掘届31件、発掘通知６件である。また、今年度は遺跡の新規発見届及び通知は６件提出されている。

第１表　発掘届出件数月別一覧

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	総　数
発掘届	8	2	6	1	2		1		8	3	31
発掘通知	2		1			1	1		1		6
発見届	1	1				1	1				4
発見通知		1								1	2



第１図　河内長野市遺跡分布図

第２表　河内長野市遺跡地名表

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	塩谷遺跡	弥生時代～中世	43	河合寺	中世
2	千代田神社遺跡	中世	44	河合寺城跡	中世
3	菱子尻遺跡	弥生時代～中世		末広窯跡	中世
4	小山田１号古墓	奈良時代	45	福田家	近世
5	小山田２号古墓	奈良時代	46	大師山遺跡	弥生時代中期
6	寺ヶ池遺跡	旧石器時代～縄文時代			～古墳時代前期
7	住吉元宮遺跡	中世	47	大師山南古墳	古墳時代
8	上原北遺跡		48	三日市遺跡・石仏遺跡	旧石器時代～近世
9	長池窯跡群	中世	49	小塩遺跡	
10	青垣神社遺跡	中世	50	加塩遺跡	
11	塚穴古墳・上原遺跡	古墳時代後期～中世	51	尾崎北遺跡	
12	高向遺跡・高向南遺跡	弥生時代～中世	52	尾崎遺跡	
13	惣持寺跡	中世	53	加賀田神社遺跡	
14	高向神社遺跡	中世	54	ジョウノマエ遺跡	
15	宮山古墳	古墳時代後期	55	栗山遺跡	
16	高木遺跡	旧石器時代～縄文時代	56	観心寺	平安時代～
17	峰山城跡	中世	57	川上神社遺跡	中世
18	汐の山城跡	中世	58	延命寺	
19	日の谷城跡	中世	59	石仏城跡	中世
20	金剛寺		60	左近城跡	中世
21	日野観音寺遺跡	中世	61	薬師寺	
22	稲荷山城跡	中世	62	清水遺跡	中世
23	旗蔵城跡	中世	63	千早口駅南遺跡	中世
24	国見城跡	中世	64	地蔵寺	
25	権現城跡	中世	65	大江家	
26	清水阿弥陀堂跡	近世	66	葛城第１８経塚	
27	滝畑埋墓	近世	67	旗尾城跡	中世
28	中村阿弥陀堂跡	近世	68	天見駅北方遺跡	中世
29	堂村地蔵堂跡	近世	69	蟹井淵北遺跡	中世
30	天神社遺跡	中世	70	蟹井淵神社遺跡	中世
31	西の村阿弥陀堂跡	近世	71	蟹井淵南遺跡	中世
32	東の村阿弥陀堂跡	近世	72	流谷八幡神社遺跡	中世
33	向野遺跡		73	葛城第１７経塚	
34	双子塚古墳伝承地		74	薬師堂跡	
35	五の木古墳跡	古墳時代後期	75	岩湧寺	
36	古野町遺跡	中世	76	葛城第１５経塚	
37	膳所藩陣屋跡	近世	77	市町東遺跡	
38	西代神社遺跡		78	西之山町遺跡	
	本多藩陣屋跡	近世	79	上原近世瓦窯	
39	法師塚古墳伝承地		80	上田町窯跡	
40	長野神社遺跡	中世	81	野間里遺跡	
41	大日寺遺跡		82	仁王山城	
42	烏帽子形古墳	古墳時代	83	岩立城	
	烏帽子形城跡	中世	84	タコラ城	
	烏帽子形八幡宮	中世			

2．調査の状況

今年度の発掘届にみられる原因者の状況は、昨年度と同様に個人住宅の立替及び個人による小規模賃貸マンション・倉庫の建築が多い。

また、今年度は新規発見の遺跡が６件と例年より多く、開発の増加にともない今後も件数は増加するものと考えられる。

第３表　主な民間開発関係発掘調査一覧

（１月末現在）

遺跡名	調査期間	申請者	申請面積	用途	区分	備考
上原	2.4/9	㈱沢田観光	974㎡	倉庫	原因者	遺構・遺物なし
上原近世瓦窯	2.4/10	芝谷英夫	2000	倉庫	原因者	新規発見
尾崎	2.4/17	宮坂元善	700	倉庫	原因者	遺構・遺物なし
塩谷	2.4/26	灰原静男	702	ビル建築	原因者	遺構・遺物なし
塩谷	2.4/27	隅谷ハマエ	810	共同住宅	原因者	遺構・遺物なし
烏帽子形城	2.6/26～6/29	森實太一	192	個人住宅	国庫	本書掲載
尾崎北	2.7/16	綾塔精鋼	3000	倉庫	原因者	新規発見
金剛寺	2.7/23	田中武夫	334	個人住宅	国庫	遺構・遺物なし
菱子尻	2.7/23～8/31	開発観光㈱	5000	共同住宅	原因者	別掲載
市町東	2.9/3～9/20	道旗清	500	共同住宅	原因者	新規発見
塩谷	2.9/25	津村武	183	個人住宅	国庫	遺構・遺物なし
ジョウノマエ	2.10/22～11/6	土井畑数男	2700	共同住宅	原因者	別掲載
西之山町	2.10/29～12/17	雷	2.1㌶	店舗	原因者	新規発見
向野	2.11/19～11/29	中谷善子	244	店舗住宅	国庫	本書掲載
上田町窯跡	2.11/29～12/14	㈱スミトー	1.6㌶	共同住宅	原因者	新規発見
向野	3.1/7～1/26	坂本久	189	店舗住宅	国庫	本書掲載
向野	3.1/7	西野清	710	個人住宅	国庫	遺構・遺物なし
烏帽子形城	3.1/16	吉井徳次	239	個人住宅	国庫	本書掲載
烏帽子形城	3.1/29	徳備武雄	140	個人住宅	国庫	遺構・遺物なし

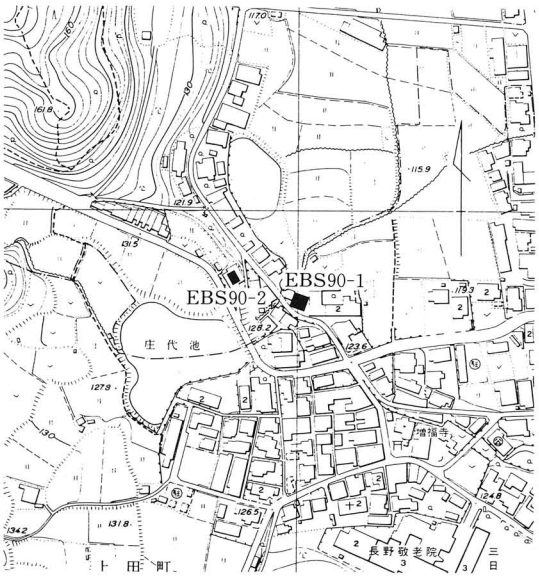
3．調査の結果

(1) 烏帽子形城　ＥＢＳ90－１

Ａ．位置と環境

当該遺跡は中世から近世初頭にかけて登場する山城の烏帽子形城を中心に、その東側裾部の段丘上に広がる縄文時代から中世にかけての集落跡を含むものである。

今回の調査地は城の東側裾部を南北に走る高野街道沿いの河内長野市上田町137番地で、標高122ｍを測る。調査面積は約10㎡である。



第２図　烏帽子形城調査地位置図

Ｂ．結果

調査した結果、若干の遺物と礎石建物及び石垣の一部が検出された。

遺構面は、現地表直下から検出された。

〔礎石建物〕

トレンチ東側に一部検出された。東西方向３間（2.3m）以上、南北１間（2.1m）の建物と考えられる。東西方向の柱間は西から0.8m、0.8m、0.7mを測る。礎石は亜角礫の河原石で規模は平均的に約40×30×20㎝程度のものである。

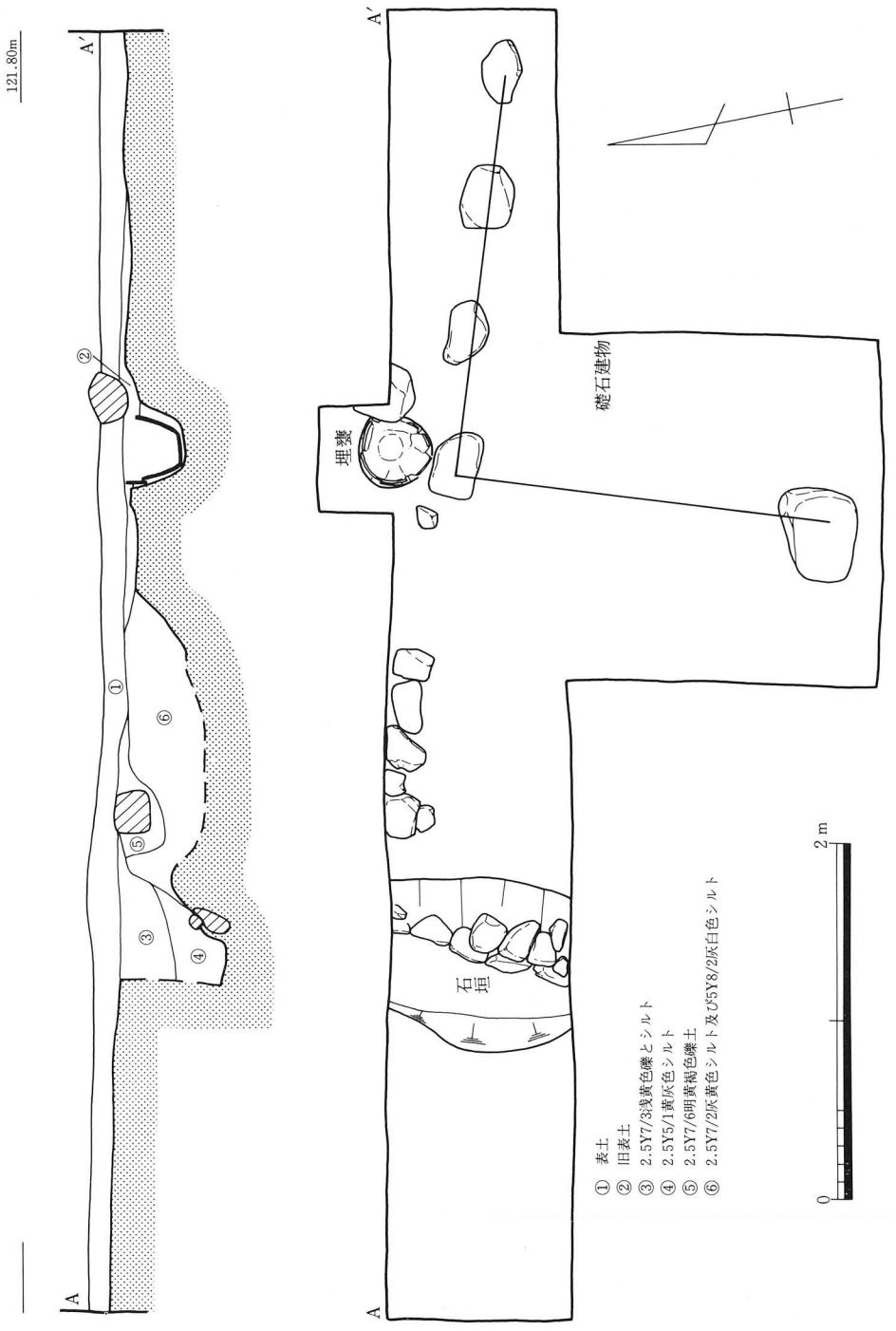
〔埋甕〕

建物の北西隅の礎石に接するように設置されていた。甕は上半分が削平されていた。掘り方は平面形が円形を呈し、甕の大きさと余り変わらない程の規模である。現況で平面径0.42m、深さ0.35mを測る。

甕⑬は大谷焼の水甕である。

〔石垣〕

現在は整地されているが、建物の西側が谷状地形で約0.4m下がる。この部

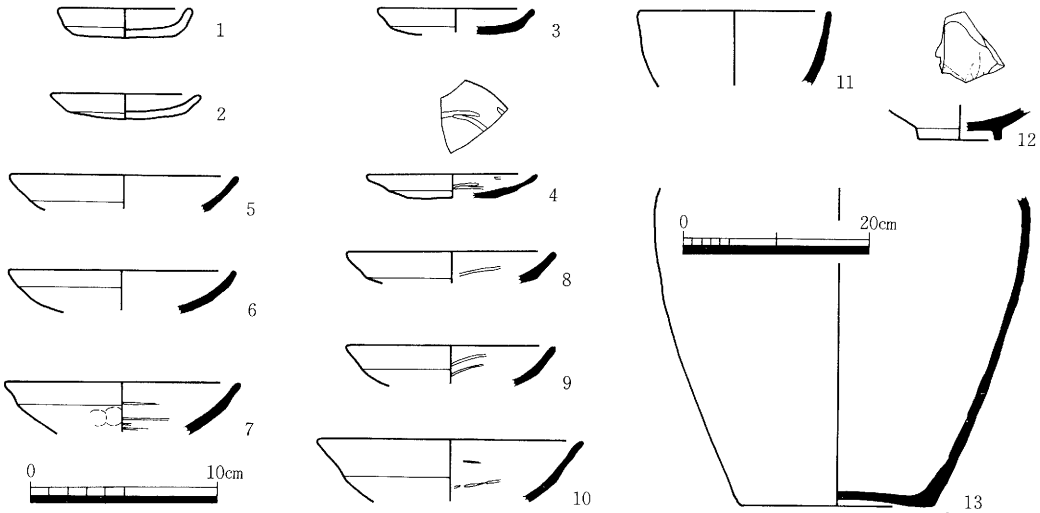


第３図　ＥＢＳ90－１遺構実測図

分に河原石を１段ないし２段積んだ石垣の一部が検出された。河原石の大きさは約40×30×20㎝程度のものである。

〔遺物〕

出土した遺物は、主に土師質及び瓦質の小皿、碗、羽釜、甕、湊焼甕、陶磁器類、瓦類等がみられた。いずれも、細片が多く実測できたものは僅かであった。①～②は土師質小皿。③～④は瓦器小皿。④の内面にはヘラ磨きが見られる。⑤～⑨は口径11～12㎝を測る瓦器碗で、内面に数条の暗文が見られる。⑩は口径約14㎝の瓦器碗で、尾上編年でⅣ－３～４に相当すると思われる。⑪は外面が緑色を呈す磁器碗片。⑫は見込部に文様を施す磁器碗高台部。⑬は底径20.5㎝、体部最大径38.4㎝を測る大谷焼の水甕である。これらの遺物から、おおよそ室町時代末期から江戸時代にかけてのものと思われる。



第４図　ＥＢＳ90－１出土遺物実測図

Ｃ．まとめ

調査の結果、礎石建物の一部とそれに付属すると考えられる埋甕が一点検出された。また、西側は現在の宅地よりも狭く、石垣状の遺構が見つかった。いずれも、江戸時代の遺構と考えられる。この建物は、旧高野街道に面して建てられていたものと思われる。

(2)　烏帽子形城　ＥＢＳ90－２

Ａ．位置と環境

今回の調査地はＥＢＳ90－１の北側30ｍに位置する。行政的には喜多町262番地に当たる。調査地は斜面地を削平して作られた宅地で、旧高野街道とは比高差があり、４ｍ程度高い。標高は127ｍを測る。調査面積は約８㎡である。

B．結果

調査した結果、若干の遺物と柱穴状のピット、焼土坑が検出された。

遺構面は、現地表直下から検出された。

〔焼土坑〕

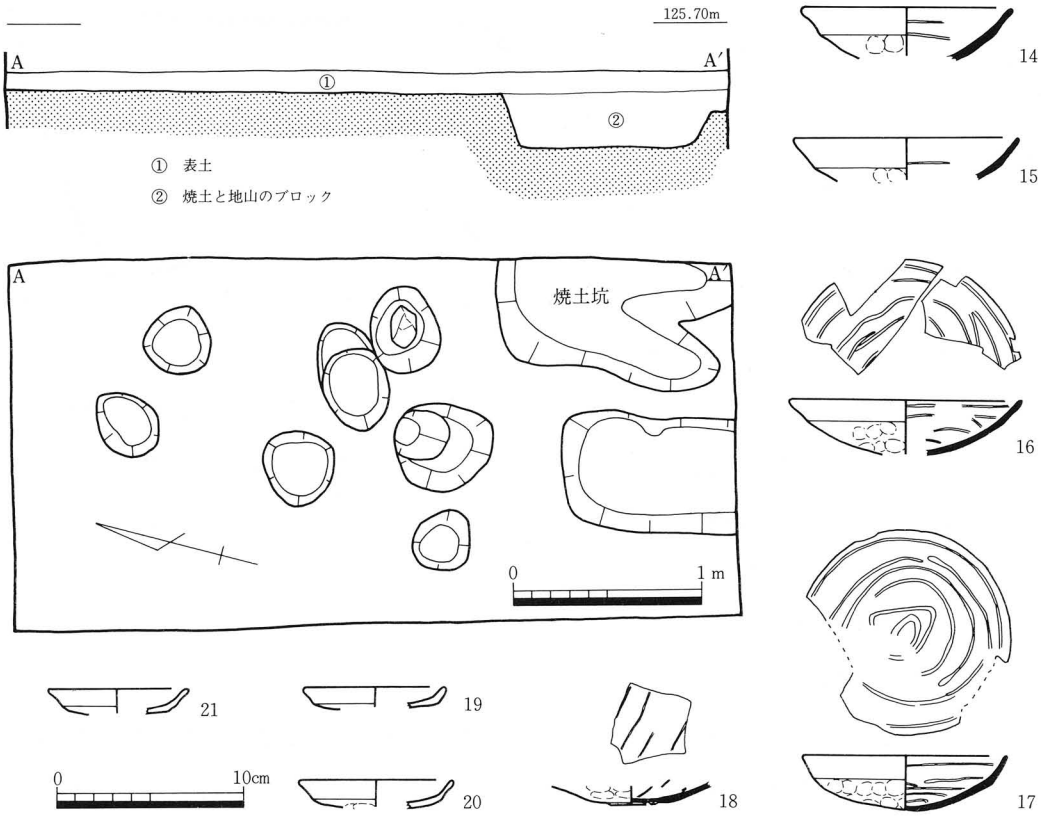
調査面積が狭いため詳細は不明であるが、調査区の南端から不安形な土坑が検出された。全容は不明であるが、検出長1.24m、検出幅0.7m、深さ0.3mを測った。土坑の埋土には焼土と炭が狭在していた。

遺物は、土師質小皿⑳及び土師質土器片が出土した。

〔ピット〕

全部で７箇所のピットが検出された。規模は平均径0.5m、深さ0.5mで、内４箇所からは遺物が出土している。

遺物は、土師質小皿⑲、瓦器碗⑭～⑱及び土師質羽釜、陶磁器類の細片が出土した。



第５図　ＥＢＳ90－２遺構及び出土遺物実測図

〔遺物〕

出土した遺物は、主に土師質小皿、瓦器碗、土師質羽釜、瓦質鉢、及び陶磁器類で、殆どが細片である為実測に耐えれるものは少なかった。⑭～⑱はピットより出土した瓦器碗で、⑭～⑰は内面に渦巻状の暗文を施す。⑱は見込部に平行線の暗文を施し、高台を伴うもの。いずれも、尾上編年でⅣ－２～３に相当すると思われる。⑲～㉑は土師質小皿で、⑲はピット、⑳は焼土坑、㉑は包含層よりそれぞれ出土した。おおよそ、室町時代末期から江戸時代にかけてのものと思われる。

C．まとめ

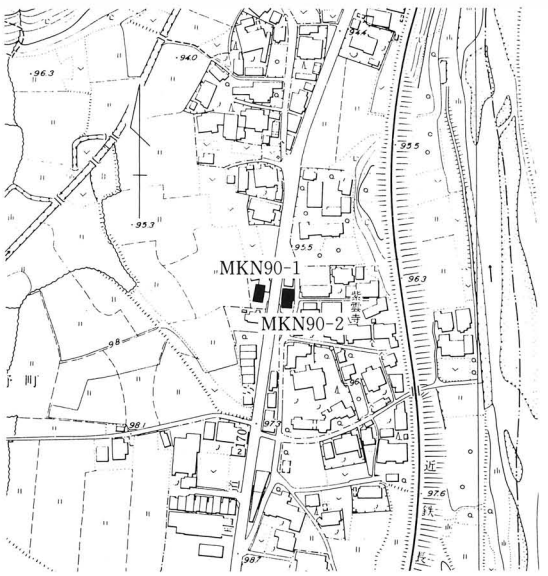
調査の結果、遺構が存在しないと予想されていた斜面地の狭い宅地からの検出は、この付近の遺構分布に新たな示唆を与えた。

中世の遺構は烏帽子形城のあるこの山の裾部に分布すると考えられる。

(3)　向野遺跡　ＭＫＮ90－１

A．位置と環境

当該遺跡は石川の左岸、中位段丘の下段に形成された縄文時代後期・平安時代・中世の複合遺跡である。遺跡の遺構の分布は西側と東側の２グループに大別され、今回の調査地は縄文土器と中世の建物が検出された東側のグループの範囲に入る。



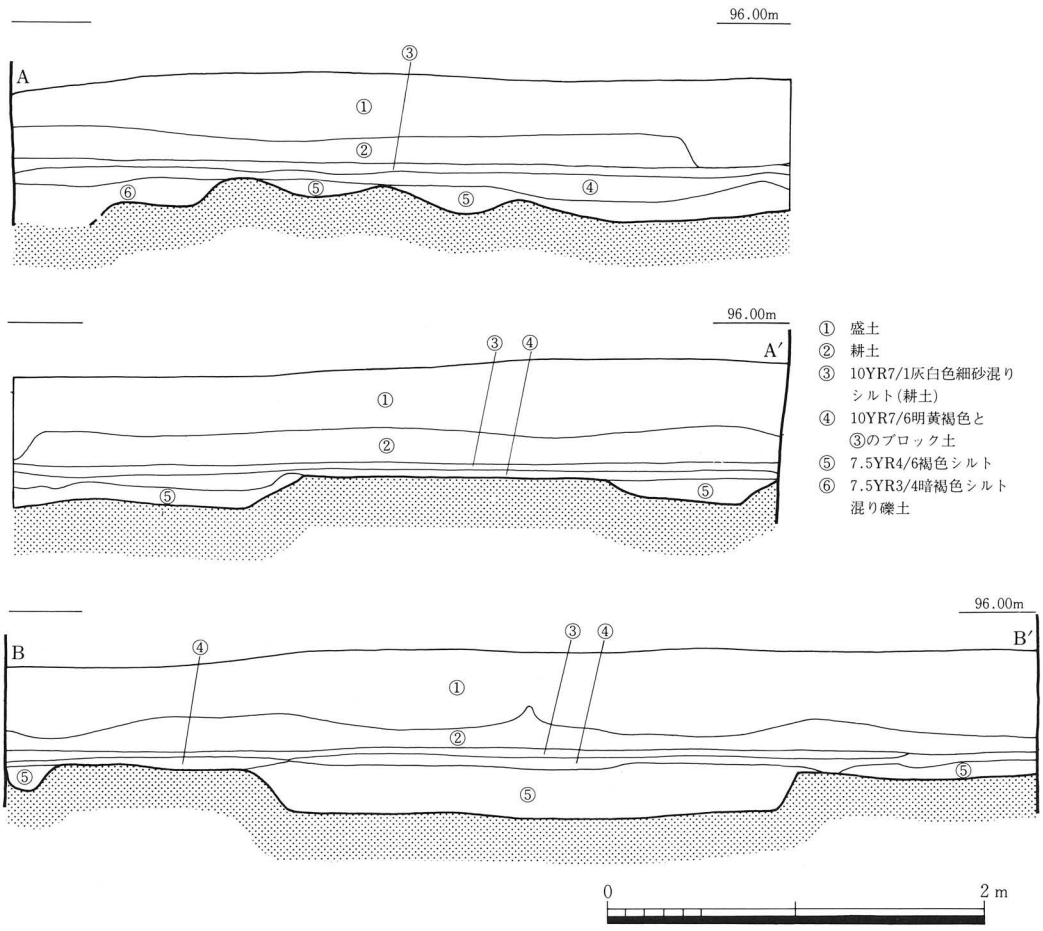
第６図　向野遺跡調査地位置図

今回の調査地は旧170号線の西側、東高野街道より10ｍ西に入り込んだ旧村落の中である。行政的には河内長野市向野町304番地で、標高96ｍを測る。調査面積は約40㎡である。

B．結果

調査した結果、若干の遺物と掘立柱建物の柱穴の一部、方形土坑が検出され

第 7 図　MKN 90－1 遺構実測図



第８図　ＭＫＮ90－１調査区土層図

た。遺構面は盛土、旧耕土など約60㎝を除去すると玉石混じりのシルト・細砂層が地山として現れた。

〔方形土坑１〕

調査区の北端で検出された。平面形は隅丸の長方形を呈すると考えられるが半分以上は調査区外に広がる。検出長3.5m、深さ0.1m、幅1.5m以上で、主軸方向はＮ－45°－Ｗ。埋土内からは焼土と炭が混じり、底部には炭層が狭在する。また、肩部には厚さ10㎝で黄色粘土がみられ、意図的に貼り付けられているようである。

〔方形土坑２〕

調査区の北端で検出された。方形土坑１に重複する。平面形は隅丸長方形で

半分以上は調査区外に広がる。検出長２ｍ、深さ0.07ｍ、幅0.5ｍ以上で、主軸方向はＮ－77°－Ｗ。埋土内には焼土と炭が混じり、底部には炭層が狭在する。

〔素堀井戸〕

調査区の中央で検出された平面形が円形を呈する井戸である。規模は上端径が1.1ｍ、下端径が0.7ｍ、深さが0.5ｍを測る。

遺物は、瓦器小皿①、瓦器碗②の他、瓦器碗の細片が出土した。

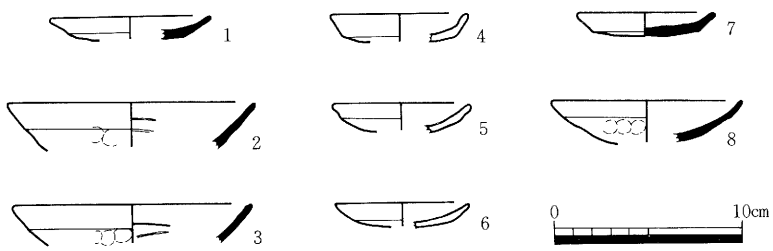
〔ピット〕

径0.5ｍ、深さ0.5ｍ程度のピットが約2.4ｍの間隔で２箇所程度並ぶが、調査区が狭く建物に復元できるほど並ばない。並ぶ方向は正方位に近い。

遺物は、瓦器碗③、及び土師小皿片、瓦器碗片等がみられた。

〔遺物〕

出土した遺物の量は相対的に少なく、また殆どが細片であった為、実測に耐えれるものは僅かであった。①は井戸から出土した瓦器小皿。②は同じく井戸出土の瓦器碗の口縁部片であるが、内面に数条の暗文がみられる。尾上編年でⅣ－３に相当すると思われる。



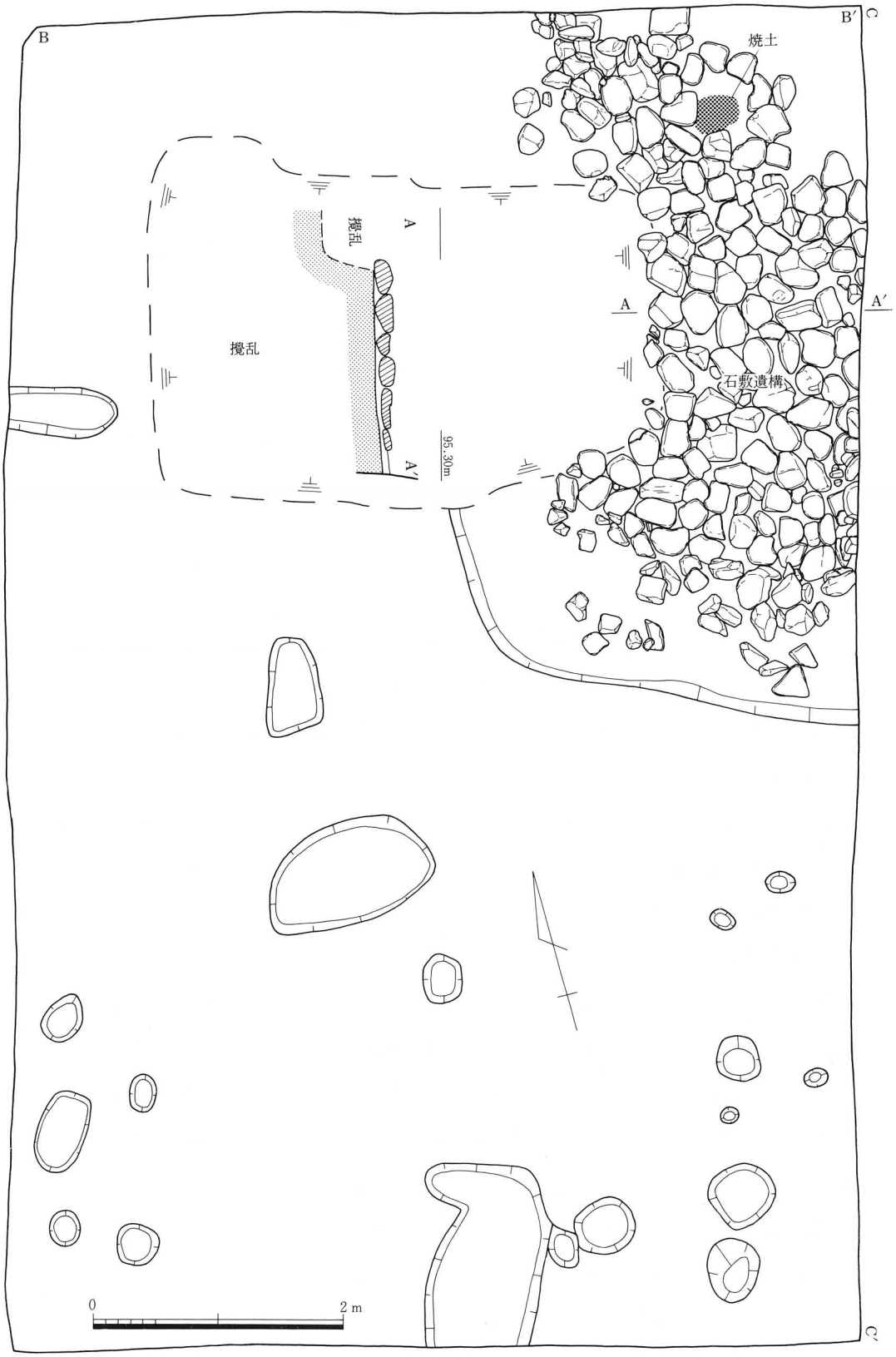
第９図　ＭＫＮ90－１出土遺物実測図

③はピットより出土した瓦器碗で、②同様Ⅳ－３に相当すると思われる。包含層より、土師質小皿④～⑥、瓦器小皿⑦、瓦器碗⑧が出土した。この他、土師質羽釜、瓦質羽釜、湊焼甕、備前焼甕、及び刷毛目唐津、伊万里等の陶磁器片が20個余りみられた。おおよそ、室町時代前半から江戸時代位のものと思われる。

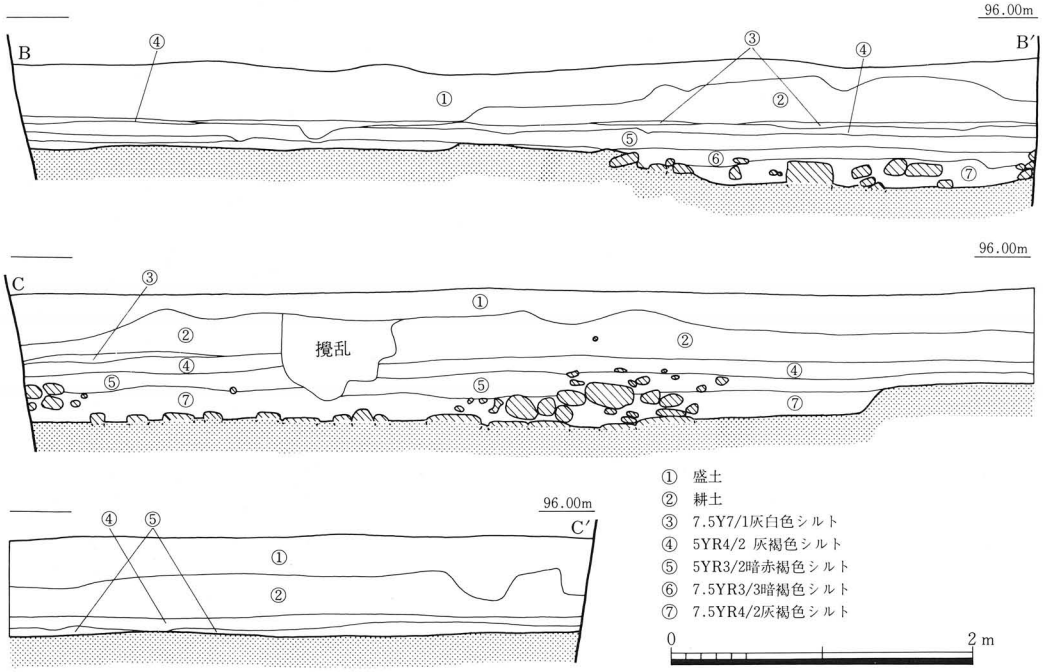
(4)　向野遺跡　ＭＫＮ90－２

Ａ．位置と環境

今回の調査地は旧国道170号線の東側、東高野街道の西側に接した旧村落の中である。ＭＫＮ90－１とは旧国道170号線を挟んで反対側である。行政的に



第10図　MKN 90－2 遺構実測図



第11図　ＭＫＮ90－２調査区土層図

は河内長野市向野町304番地で、標高96mを測る。調査面積は約50㎡である。

Ｂ．結果

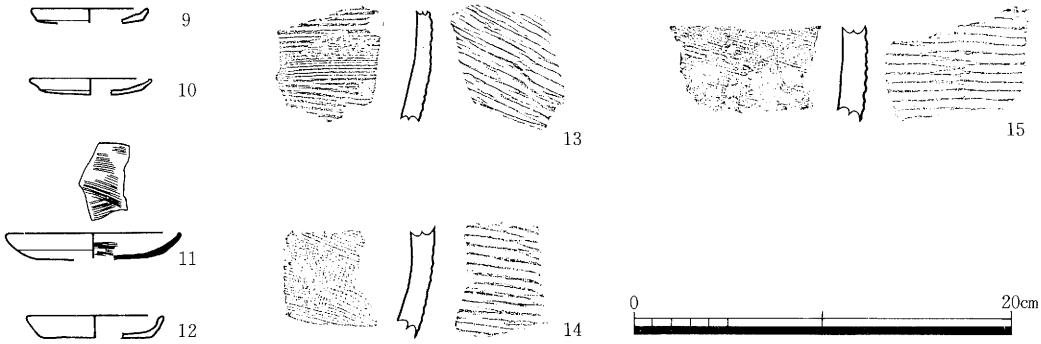
調査した結果、若干の遺物と柱穴状のピットや溝状遺構、石敷遺構が検出された。遺構面は盛土、旧耕土など約60㎝を除去すると玉石混じりのシルト・細砂層を地山として現れた。

〔石敷遺構〕

調査区の北東側で検出され、西南隅は撹乱で削平されていた。また、北、東側は調査区外にのびる。遺構は平面形は長方形を呈すると考えられるが全容は不明である。断面から見ると長方形土坑の底部に、約40×30×20㎝程度の平らな川原石を敷並べているようである。検出長は、東西2.4m、南北5.0m。この敷石の中で石が抜けているところがあり、その部分に焼土が見られた。

遺物は、土師質小皿⑨～⑩、瓦器小皿⑪及び土師質羽釜、瓦質羽釜、甕、火舎、湊焼甕片等が出土した。

その他ピットと溝状の遺構が検出されたが、建物等には復元できなかった。



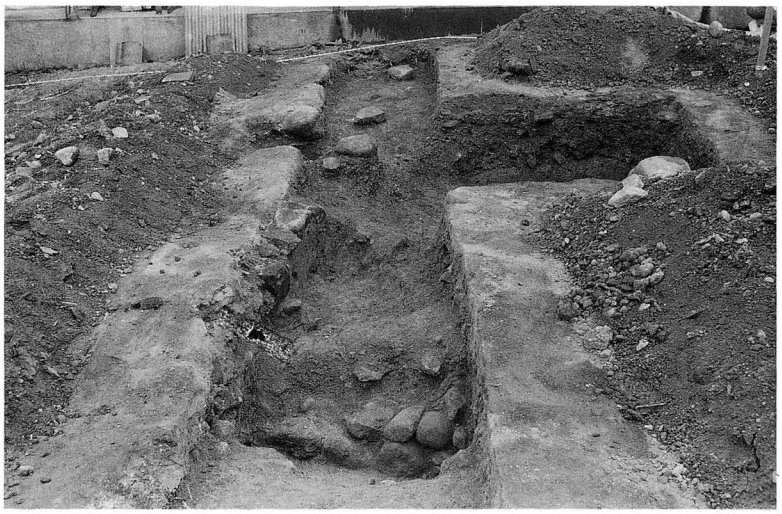
第12図　MKN90－２出土遺物実測図

〔遺物〕

出土した遺物の量は少なく、殆どが細片であった為、実測できたものは僅かである。⑨～⑩は石敷遺構より出土した土師質小皿。⑪は内面にハケ目を伴う瓦器皿で、口径約９㎝を測る。⑬～⑮は石敷遺構より出土した湊焼甕の体部片で、外面はタタキ、内面にハケ目を施す。この他、土師質羽釜、土師質鉢、瓦質羽釜、備前焼甕、陶磁器片、瓦類などがみられた。江戸時代のものと思われる。

図　　版

図版1　遺構　烏帽子形城ＥＢＳ90－1

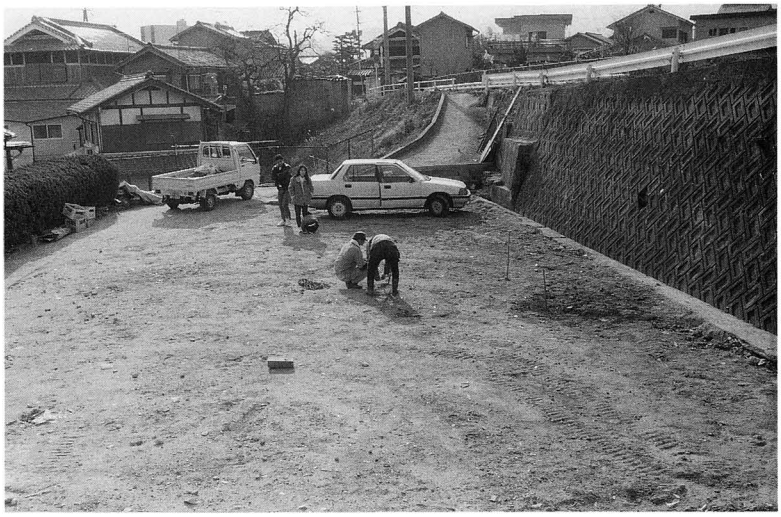


全景
（北から）

埋甕

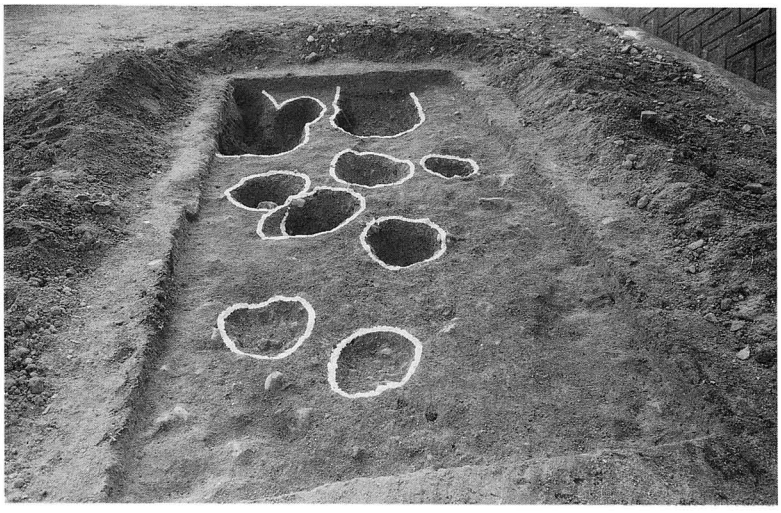
石垣

図版2　遺構　烏帽子形城ＥＢＳ90－2

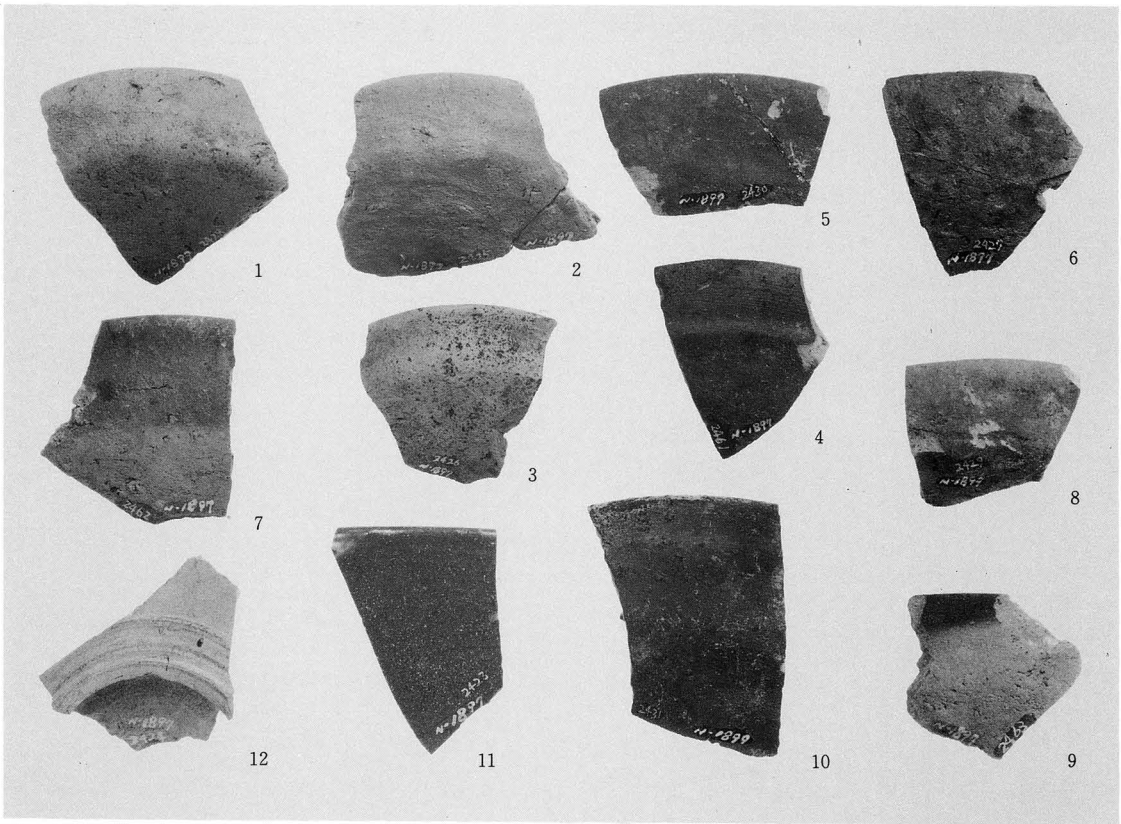


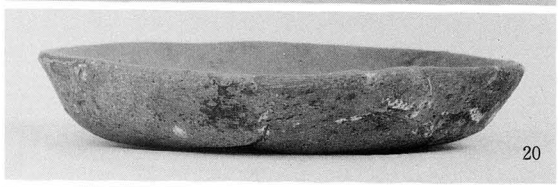
調査前
（北から）

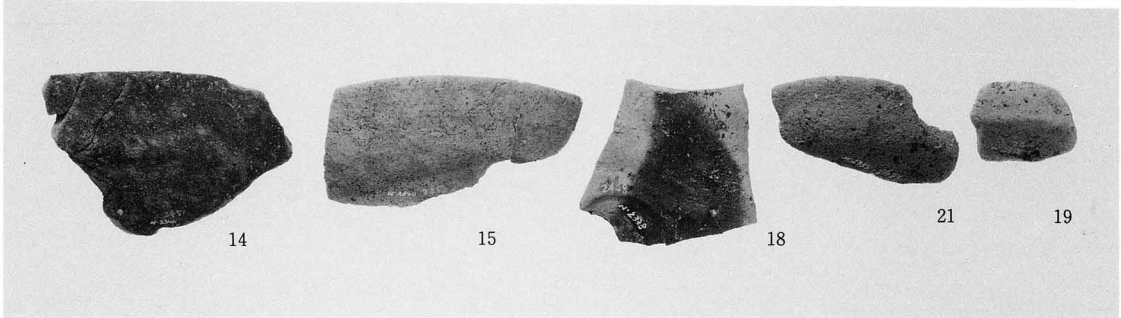
全景
（西から）



全景
（北から）

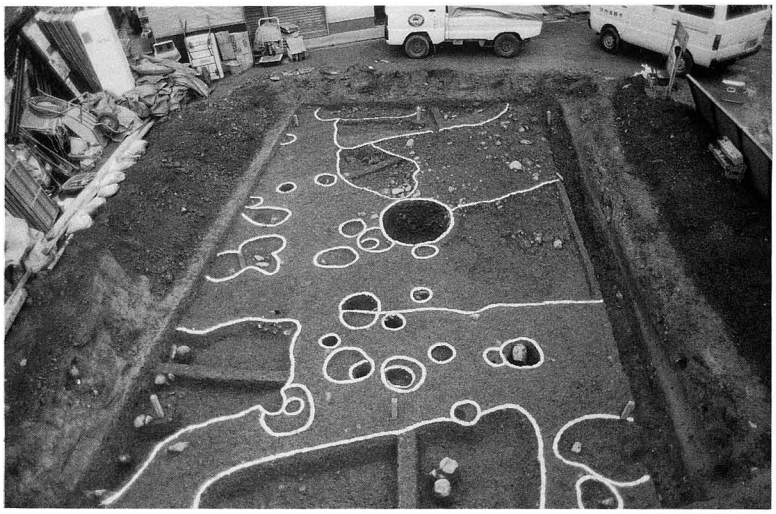






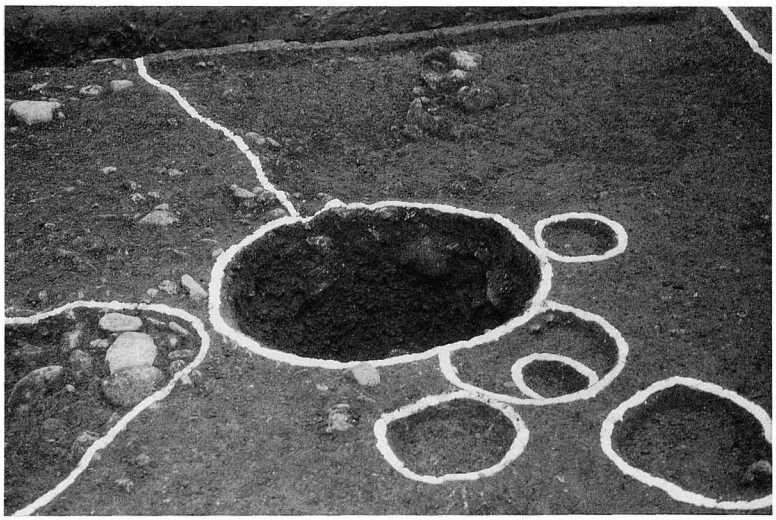
EBS90—1(1～13)、EBS90—2(14～21)

図版4　遺構　向野遺跡MKN90－1



全景
（南から）

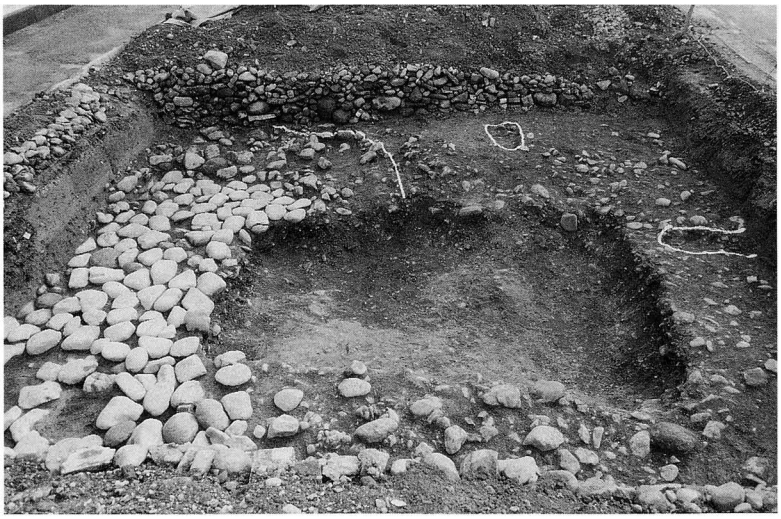
方形土坑
（西から）



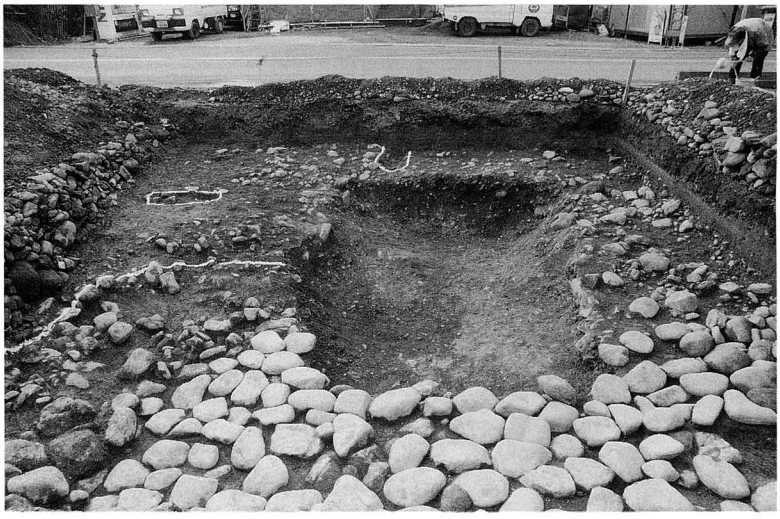
素掘井戸
（西から）

図版5　遺構　向野遺跡MKN90－2

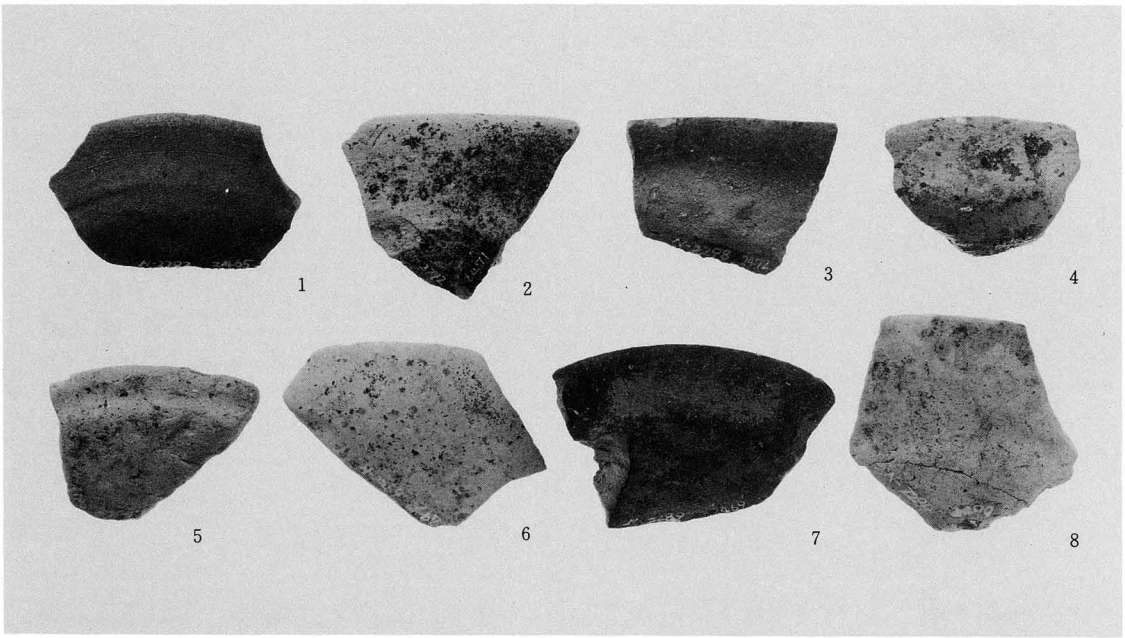
南側調査区全景
（東から）

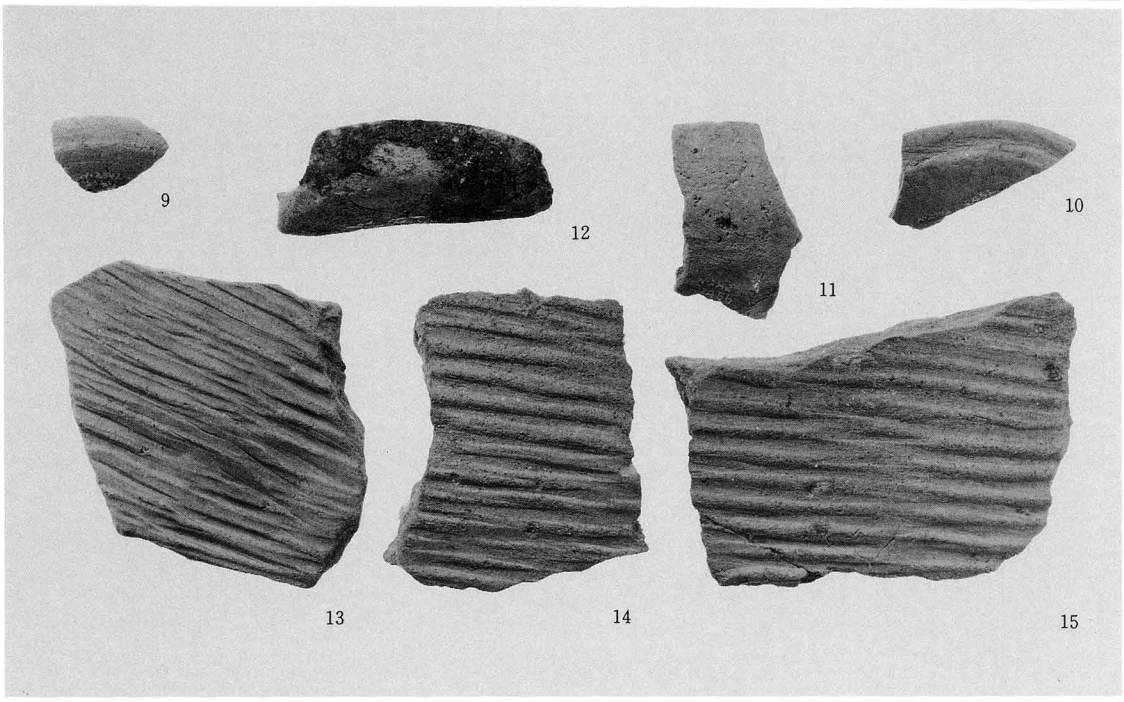


北側調査区全景
（北から）



北側調査区全景
（東から）





MKN90—1(1～8)、MKN90—2(9～15)

河内長野市埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

1991年3月

発行　河内長野市教育委員会

印刷　株式会社 中島弘文堂印刷所